

## 年頭のご挨拶

# 改革に努め、情報公開と説明責任を果たし、 透明性のある学園運営を目指します。

## 新

年おめでとうございます。今年こそ新型コロナウイルスが終息し、良い年であってほしいと願わずにはいられません。新年にあたって今後の課題についてお話しします。

(1) 中期計画の確認及び必要に応じた除修正

私立学校法の改正により、昨年4月から教育現場も民間企業と同様に中期(5年程度)、長期(10年)計画を立案し、毎年点検・評価し、欠陥をチェック修正し、再出発する\* PDCAサイクルを廻すシステムの構築、実施を求められています。

跡見学園も「教育の質的向上」「キャンパス整備」「経営改革(含人事・評価制度・諸規程の見直し)」「財務(含寄付金)」「広報」の委員会を立ち上げ、委員会には担当の常務理事を配置し、委員長は学内理事、評議員から選び、各委

員会10名程度の委員で構成し、具体的な課題に対する検討に入りました。

今年3月で一年目が終わりますので、最初に設定した課題の再検討、必要に応じて修正する作業を行い、二年目の来年度には軌道に載せたいと思います。

中期計画の五年目の終わりは2025年に入り、学園創立150年を迎えますので、第一期の成果をそこに集約するように実行してまいります。

## 実社会で使える

### ICT教育へと見直し

(2) ICT(情報通信技術)の拡充とオンライン授業の今後

学校教育の大切なところは、毎日登校し、対面で授業を受けることにあります。生徒や学生は一日の大半を学校で過ごし、集団生活をし、その中で友人ができ、時にトラブルも起きます。学校は実社会の縮図です。しかしこんな考えが通じな

い新型コロナという疫病が教育現場を変えざるを得なくなりました。多くの職場でもリモートワークが当たり前となりました。

このような社会状況の変化の中で、WiFi環境を整備し、ICT教育の実施のために資金投入をせざるを得ません。大学の卒業単位124単位のうち60単位まで遠隔授業により修得してよいとなっています。恐らく今後は対面とオンラインがほぼ半々となるだろうと思えます。卒業し、就職すれば出社せずしてリモートワークとなっていく可能性ががあります。そうなると、現在の大学でのICT教育は見直す必要があります。

将来的には今の大学教育のカリキュラムは高校でのICT教育へ移され、大学では即、実社会で使える能力の習得が求められるはずで、そういった社会にしなやかに適応する力を身につけること、そのためのカリキュ



跡見学園理事長

山崎 一穎

ラムが必要となります。今後の課題として挙げておきます。

(3) 学園の運営にあたって

ICT教育がさらに進んでくると、学園の教育環境の整備にも選択集中が強く求められます。私学経営は財務基盤が強くなければなりません。学園の問題点は国からの補助金の交付額が他の大学より低い点です。教学改革、経営改革をしない限り増額になりませんのでガバナンス強化に努めます。

授業料という教育投資をしてくださる保護者や教育活動を支援してくださる校友会、後援会、卒業生を採用して下さる企業の皆様の期待に応えるべく、改革に努め、情報公開と説明責任を果たし、透明性のある学園運営を行っていく所存です。

皆様方のご多幸を祈念いたします。

\* PDCA: Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(改善)のサイクルを繰り返すこと、継続的な業務の改善を図る技法